

そらのとり

岩見沢聖十字幼稚園だよりNo. 17

2015年12月14日発行

12月の聖句「ひとりのみどりごが私たちのために生まれた。」

(イエス様の誕生) (新約聖書イザヤ書9章5節)



チャプレン 司祭 池田亨

古代ペルシャにおいてラクダは「沙漠の船」と呼ばれ、とても大切な家畜であったと言われます。ラクダは飲まず食わずで数日間も歩くことが出来るそうです。300キロもの荷物を運ぶことも。そして、その重い荷を背負って時速4キロで、連続30時間も無休で歩くことが可能とか。さらに、荷なしでなら時速16キロで18時間走り続けることも可能だそうです。独自の歩行は上下の揺れが少なく荷崩れせず、実に驚くべき持久力と忍耐力の持ち主なのです。

クリスマスの絵画に、星に導かれてキリストを求めて旅する東方の博士たちの乗り物として登場するラクダですが、しかし、福音書にはその存在は記されていません。後代の画家による想像の産物です。

でも、わたしはクリスマスのメッセージを伝える存在として、実にふさわしいと思うのです。降誕図にラクダが描かれる、そこには象徴的に、重荷を負う者の重荷を共に負い、こころの飢えと渴きを、愛で満たされるイエスさまのご降誕の意味を伝えてくれるからです。



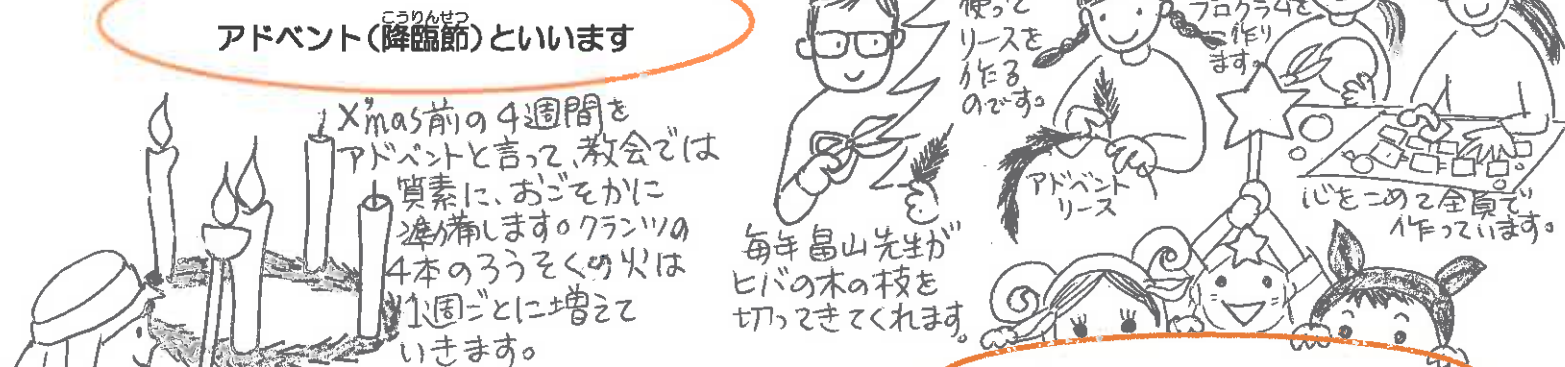
クリスマス礼拝とクリスマス祝会

園長 菊地 和子

世の中ではクリスマスというと、ごちそうを食べたり、サンタさんにプレゼントをもらったり、カップルでデートしたりと、老若男女みんなの一大イベントです。街も急にきらびやかになって経済効果にもものすごい期待が寄せられています。

でも、わたしたち聖十字幼稚園のクリスマスは、とてもささやかで質素なものです。クリスマスに向けてどんな準備をしているのか、ご紹介します。

アドベント(降臨節)といひます



生誕劇は全員が主役です



楽しい祝会でささやかに祝います



心こめた献金箱

先生方の夕方の反省会。今日の子供たちのがんばりや心配なこと、保護者の皆さんからいただいたご相談などを交流します。最後に日直の先生がお祈りしてくれます。「世界中には今も戦争やテロなどで苦しい生活をしている人がたくさんいます。子供たちが毎日献金している優しい気持ちが、どうか世界に届けられますように。」子供たちが作った素敵な献金箱、心を込めた献金箱です。自分が少しがまんをして、誰かのためにできることをする。平和を分かち合う、クリスマスのほんとうの意味がここにあります。